

令和4年度第2回古賀市地域活動サポートセンター運営委員会

会議録

1. 日 時 令和5年2月27日(月) 14時00分～15時00分
2. 場 所 古賀市地域活動サポートセンター
3. 出席者
(委 員) 三木会長、柳武副会長、穴井委員、井上委員、大須賀委員、大庭委員、片江委員、蓮尾委員、真鍋委員、森本委員
(事務局) 健康介護課 健康づくり係 係長：吉田、梅谷、大山、大嶋、三原、荒井、中原、吉野
(社会福祉協議会) 2層 SC 多田、山本、田中、地域 SW 傳、崎田、原

古賀市地域活動サポートセンター条例施行規則第16条第2項の規定により委員定数10名のうち過半数の出席があり、会議は成立。

4. 傍聴者 1名
5. 議題
(1) 令和4年度地域活動サポートセンター活動状況
(2) 高齢者の健康づくりについて
6. 資料
【資料1】 令和4年度地域活動サポートセンター活動状況
【資料2】 高齢者の健康づくり
【資料3】 社会保障給付費の安定に向けて

7. 会議内容

(1) 市あいさつ(健康介護課健康づくり係長)

- ・日頃より地域づくり及び介護予防活動にご尽力いただいていることの御礼。
- ・コロナが第5類に変更となるに伴い、以前のような活動が再開できるようセンターでも職員一丸となってサポートしていきたい。本日は今年度の取組と次年度に向けた報告をするが、皆さまからの意見をいただき準備を進めていきたい。

(2) 令和4年度地域活動サポートセンター活動状況 …資料1

事務局より、令和4年度地域活動サポートセンター活動状況について説明。

【質 疑】

(委 員) ボールンピック大会について。コロナがきっかけでボールンピック大会の予選をリモートで行い、参加人数も増えていたと思うが、コロナの状況が落ち着いたら今後はどのような開催方法を検討しているか。

(事務局) コロナ禍にイベントを行うにあたり、一箇所に多くの人を集めることができないため、令和2年度は地域の公民館等をリモートでつなぎ、3チームの対戦型で予選会を開催した。これまでは体育館まで行くことのできなかつた高齢者が、地域の歩いて行くことのできる公民館で予選会を開催することで参加できるようになり良かったとの声が多く聞かれ、参加者も増えた。令和3年度と令和4年度は対戦ではなく、その場で得点を取り、得点で順位を競う形で実施した。決勝戦に進むために道具一式そろえたり、練習に力を入れる地域が増えてきている。今後も予選会は地域で行い、本選は体育館で実施するという開催方法を継続したいと考えている。しかしながら今後の状況によってはまた開催方法は検討する必要があると考えている。

(委 員) 今年度はリモートでの開催はしないのか。

(事務局) 対戦型にすると同じ時間に3カ所で3チームが同時にゲームを行うため、各団体の都合もあり調整が困難であった。昨年度はリモートで交流をするという形で実施した。リモートでつなぐためにはWi-Fi環境やパソコン等の設備環境の準備が必要なおともあり、今年度リモートは行わなかった。

(委 員) シニアクラブがない地域へボールンピックの参加を働きかけたいとあるが、具体的にはどのようなことをするのか。

(事務局) シニアクラブがある地域では担当の方が地域全体に積極的に声掛けをしてくれている。シニアクラブがない地域においては全行政区にある福祉会に参加を呼びかけ、実際に福祉会より新たに参加した地域もある。また、広報にも募集記事を載せているので広報を見て参加するチームもある。

(委 員) 地域にシニアクラブがないと連絡が行き届きにくい状況であれば、シニアクラブがない地域に対して立ち上げの支援をすることも必要ではないか。

(事務局) 古賀市には古賀市シニアクラブ連合会という組織がある。地域にシニアクラブはあっても連合会に所属していないという団体が多い。連合会に所属し、市とつながることのメリットを伝えることが必要だと考える。2層生活支援コーディネーターが連合会に入っていないシニアクラブに働きかけ、専門職が関わる測定会をコーディネートした例もあるように、市の連合会に地域のシニアクラブをつなぎ、行政側もフォローしてい

きたい。ゆいもシニアクラブと関わるが多いため、より良い形になるように社協の2層生活支援コーディネーターとも連携してやっていきたい。

(委員) 生活支援について。民生員で地域の見守りを行っている方から、目が悪く通帳からお金をおろすことができずに困っている方がいると聞いている。そのような方の支援を行ってくれる人はいるのか。

(社協) 社会福祉協議会の安心生活サポート事業で相談が可能であると思う。ご本人との契約で対応可能なことを整理しながら相談に応じていく。

(3) 高齢者の健康づくりについて …資料2, 3

事務局より、高齢者の健康づくりについて説明

【質疑】

(委員) 古賀市の取組にはいつも感心している。健診が促進しないとあるが、健診を受診することで特典がつけば関心を持ってもらえるのではないかと。

(事務局) 健康診断を受診すると、福岡けんこうポイントアプリのポイントが付与できる。また、高齢者外出促進事業のおでかけシールがもらえたり、健診や結果説明会を受けて抽選でプレゼントが当たる健診割という取り組みもあるが、届きにくい現状である。

75歳以上の高齢者に関しては9割の方が医療機関を受診しており、そのため健診は受けなくていいという方が多い。健診の受診率を上げ、重症化予防につなげたいと考える。

(委員) 資料2について。KDBシステムとはどのようなものか。

(事務局) 国保連合会が作っているシステムでレセプトデータや健診結果を集計している。システムの特徴として、古賀市に転居して来られた方で前の居住地で健診を受診した場合、古賀市では健診を受診していないと出るためデータに差異ができる。

(委員) 資料3について。高血圧で未治療・治療中断の方がいるが健診で分かったのか。

(事務局) はい。健診で高血圧と判明する方もおり、保健指導につなげている。

(4) その他

次回開催日程について (令和5年7月予定)